

トゥデイズ ABA の展望 グレッグ・ハンレー博士

トゥデイズ ABA (Today's ABA) は、自閉スペクトラム症の方へ、特に日常的に問題行動を起こしている人へ、セラピーをはじめるためのものです。

トゥデイズ ABA (ABA=応用行動分析学) は、サービスを受けている自閉スペクトラム症の方の意向を常に学び、当事者だけでなく周りの方にも喜ばれるスキルを身につけるために、好ましい学習環境を継続的に開発できるようにすることを目的としています。

以下は、トゥデイズ ABA をこれから実践する方、また興味を持たれている方に対して、どのようなものなのかを説明するためのガイドです。

聞いて学ぶ

自閉スペクトラム症のご本人、あるいはご本人をよく知り、愛情を注いでいる人々に、ご本人が好きなもの、嫌いなものを聞いてみてください。好きな遊びや、お気に入りの物、家具、場所、人や環境、特に社会的相互作用に対する好き嫌いや関心度を必ず確認してみてください。そして、その周りの人々に、自閉スペクトラム症の“声”について聞いてみてください。日常的にどのようにコミュニケーションをとっているのか？そして、特に、問題行動で何を伝えているのか？つまり、トゥデイズ ABA は、自閉スペクトラム症のご本人またはご本人を知り、大切にしている周りの方々に対して、ご本人に関して質問をし、耳を傾け、学ぶことから始まります。

楽しさを創り出すことによって学ぶ

その会話から、自閉スペクトラム症の方が楽しく、リラックスして、夢中になれるような環境、そして安全でご自身でコントロールできると感じられるような環境を組み立ててください。その空間を、ご本人が好きな物や活動で豊かにしてあげましょう。ケチらずに、たくさんあったほうがいいのです。それがたとえ過去に、それらを取り除かれることにうまく対応できなかつたり、遊びや関わり方がとても独特であつたり、周囲から非難を浴びそうなものであつたり、ときには破壊的な方法でそれらと関わっていたために手にする機会を失ってしまったものも、ご本人が望むものすべて与えるようにしてください。

行動や移動の自由を一切制限しないようにしてください。ドアは開けておきましょう。物理的にも会話的にも、ご本人に主導権を与えます。ご本人の行動や言葉で、その環境を設定するようにして、ご本人が望むのであれば、他の物を持ち込み、またはせっかくしまったものでも、それを取りだすことができるようにしてあげましょう。

ご本人の意向にみなさんや環境が従うようにしていることを、本人に明確に伝わるようにサインを出すようにしてください（例：近づきすぎたり、前に立ちはだかったりといった支配的なサインはすべて取り除いてください）。その際、方向性を変える、手助けをする、質問をする、

言葉の拡張や補正など周囲がこれまでしてきたような行為はすべて避けてください。自閉スペクトラム症の方に、全て 100% 利用可能であることを示し、質問された場合を除き、あなたの“意見”を付け加えないでください。自閉スペクトラム症の方が今やっていること、今そこでやったことをあなたと共有し、あなたが純粋に感動しない限り、褒めることも控えてください。なぜなら、その環境を監督することが目的ではなく共有するためだからです。

コミュニケーションをとろうとするすべての試みに応えます。これは、あなたが指導権を握ることをやめればやめるほど、生じてきます。例えば、相手が困っているときではなく、助けてほしいという意思を示したときに助けてあげてください。あなた自身も、どうしたらいいかわからぬときでも、真剣に助けようとしてください。自分に対するどんな行動も無視せず、相手の行動には普通に反応し、ただ次の交流に対しては刺激を与えようとせず、相手にリードさせてください。

自閉スペクトラム症の方があなたと一緒に共有できる場所以外行きたくなくなるまで、指示の出し方や、関わり方を修正し続けてください。 “自分の足で投票”させてください。本人の名誉を傷つけることなく、後に後悔するような身体的拘束を避けたとしても、当事者がその場を離れてしまふとしたら、それはあなたが作り出した環境を最適にするために良い情報だととらえてください。同じ空間から退出するということは、何か重要なものが欠けているか、何か嫌悪感を抱かせるものが存在していることを意味します。自閉スペクトラム症の方が幸せで、リラックスして、長時間夢中になれるまで、環境を構築し、洗練させる作業を続けてください。また、自閉症スペクトラム症の方が幸せで、リラックスし、夢中になっている姿はそれぞれ異なります、だからこそ、この時点やその次の段階において、その自閉スペクトラム症の方を知り、愛情を注いでいる人が同席することが不可欠であることを認識してください。

つまり、あなたが彼らを知っていて、彼らを見ていて、彼らの声を聞いていて、彼らのためにそこにいることを自閉スペクトラム症の方に教えてください。これは、トゥデイズ ABA (Today's ABA) の最初の、そして重要なステップです。

権限を与えることで学習をする（エンパワーメント）

安全で、かつ魅力的な状況を作り出すことができ、この状況で深刻な問題行動を起こす可能性はゼロであると確信ができたときが、自閉スペクトラム症の方にさらに権力を与え、あなたと自閉スペクトラム症の方の間に信頼を確立するタイミングだととらえてください。状況が変化しようとしていること、しかも悪い方向に変化しようとしていることを明確に示すことから始まりますが、それについて明確かつ親切でありつづけてください。通常の行動と言葉によって、今やっていることを止め、持っているモノを置き、違う方向に移動し、自己刺激的な行動を抑制し、発達に適した指導と期待が始まる領域に移行してほしいことを自閉スペクトラム症

の方に示します。この期待値の高い領域は、自閉スペクトラム症の方を知り、愛情を注ぐ人々から得られた情報をもとに、ご本人にとって挑戦的ですが、発達にとって重要であると思われる活動や期待を提示してください。

もし自閉スペクトラム症の方が、ご本人のやり方からあなたが提示したやり方へ移行するときに、苦痛や不快感、あるいは軽度の問題行動や重度の問題行動などの明確なサインを示したら、すぐにそれを認め、寛容になります。自閉スペクトラム症の方が自分のやり方に戻り、ご本人が幸せで、リラックスして、夢中になっている状態に少しの間、させてあげましょう。自閉スペクトラム症の方が権限を得て、自分の意志に反して従う必要はないこと、欲しくないものから逃げたり避けたり、欲しいものを手に入れるためにエスカレートする必要はないことを理解するのが明らかになるまで、このプロセスを繰り返します。コミュニケーションの正確さや一般的な受容性に欠けることがあっても、あなたがご本人を見て、聞いて、そしてより理解していることを教えてあげてください。あなたを信頼するように教えてあげてください。この段階には、はっきりと、注意深く、素早く、そして一貫した態度で臨んでください。この様に関係性をリセットすることで、やがてバランスを取り戻し、問題行動を再発させることなく、社会生活の中で中立的に行動することや社会生活そのものへの挑戦を再び取り入れることができます。

教えながら学ぶ

自閉スペクトラム症の方がいる家庭が、楽しい生活となるためへの道は、多くのスキルで舗装されています。遊び/レジャーのスキル、コミュニケーション、寛容性、および協力性が、大きな舗装の役目を果たします。これらが決まれば、枝分かれした道は無限に広がります。トゥデイズ ABA (Today's ABA) のプロセスは、エンパワーメントの段階で明らかになった行動を、簡単で、他の人が受け入れやすい行動に置き換えることを継続します。このプロセスでは中立さを徐々に導入し、新しいコミュニケーションスキルがうまくいくかどうかを確かめながら、協力する時間を延ばしていきます。この治療過程の進み具合と達成度は、自閉スペクトラム症の方の言動から得られるフィードバックによって確認することができます。問題行動や否定的な感情的反応に対処する時代は終わったのです。これらの言動は、治療過程がチームミーティングの後ではなく、その場で直ちに見直されるべきであるというフィードバックとしてとらえることができます。

この治療過程の出発点は、自閉スペクトラム症の方が、幸せで、リラックスして、夢中で何かに取り組んでいる状態のことです。ご本人を見ている事、声を聞いている事、理解している事そして、必要ならばここにいるというテーマは全過程を通して持続して実行していきます。繰り返し述べていますが、子供たちが動揺しているとき、あるいは強迫されているときに教えることは義務ではないのです。コンプライアンスを促進する、または自閉スペクトラム症

の方の発達状況を判断するための性急な努力は、このプロセスでは支持されません。擁護されるのは、信頼、関与、信頼性、そして主体性を確立することです。共有された経験における協力性とは以下の通りです。このプロセスでは、セラピスト、教師、親が主導するときと、自閉スペクトラム症の方が主導するときの両方でスキルが学ばれることが認識されています。また、発達の評価は、信頼と困難な課題への粘り強さが確立された後に行われるのが最善であることを理解していただきたいのです。

トゥデイズ ABA (Today's ABA) はトラウマ理解に基づいています。問題行動で行動分析士のケアを受ける人は誰でも、複数の有害事象を経験しており、その多くはトラウマを経験したと認める基準を超えていることが想定されます。聞くことによって学ぶこと、治療的文脈を豊かにすること、信頼関係を築きそれを維持すること、ご本人の主導に従うこと、人々が幸せで、リラックスし、夢中でいられる個人的文脈に依存すること、様々なコミュニケーションを聞くこと、非服従や感情的反応に対処すること、強要を教える事に重点を置かないこと、人々が立ち去るのを許すこと、パフォーマンスに基づいて決定すること、喜びから教えること、それを実施するトゥデイズ ABA (Today's ABA) はトラウマ理解に基づいていると言えます。

最終的な振り返り

私たちの世界、私たちの国、そして私たちの小さな分野である ABA は、すべて自らの岐路に立たされているのです。オフィスでの仕事の仕方やレストランでの付き合い方といったありふれたものから、制度的人種差別の撤廃といった深いものまで、現状を見直すべき時が来ているのです。私たち ABA の課題は、その中間に位置するのですが、あえて言えば、コロナウイルスが蔓延する中で仕事に復帰し、有色人種、特にアメリカの黒人に対しての差別に取り組むことに関連する課題を共有しているのだと思います。公衆衛生政策、人権、刑事司法の専門家たちから学びながら、私たちは道を切り開いていく必要があります。歴史の正しい側面に立つために、これ以上待つことはないのではないでしょうか。

私たちの仕事は支配することではなく、エスカレーションを緩和すること、あるいはそもそもエスカレーションを防ぐことです。私たちの仕事は、強制することではなく（マレー・シドマン氏に感謝！）、耳を傾け、学び、導き、指導することです。私たちの仕事は、方向転換せたり、抑制したり、単に管理したり修正したりすることではありません。私たちの仕事は、理解し、共有し、形にすることです。私たちの仕事は、何よりも安全、信頼関係、そして TV 放映されるのに値する様な関わりを優先させることです。私たちは、これらのことと優先すれば、有意義な結果が得られることを証明してきました (www.practicalfunctionalassessment.com 参照)。

これが ABA と知らない人、あるいは ABA を真っ向から軽蔑している人たちへ。そのような混乱や憎悪がどこから来るのか、私は理解しています。私は、私たちの分野が、自閉症の人々

や、十分なサービスを受けていない人々（つまり知的障害者）を支援する旅において、間違ったことと関係してきたことを認めています。行動分析士による様々な試みは以前に比べて改善しており、研究と実践の両方から、行動分析士がこの状態の改善に努めていく事は継続されるでしょう。また、科学的手法を取り入れることにより、これらの改善は決して避けられないものではない事も認識しています。ABA が存在する限り、価値観に基づく指導や介入は、科学の名の下に ABA から排除されてきました。これは悲しく不快な真実ですが、あまりにも長い間、疎外されてきた反対意見の声に耳を傾ければ、私たちの力で対処できることなのです。

ABA はトラウマを与える可能性があり、トラウマを和らげる可能性もあります。私は、何か恐ろしい事件が記録されてから根本的な変化が起きるのを待ちたくはありません。私は長年、研究、本物の実践、コンサルティング、そして特に自分の分野以外の声に耳を傾けることを通して、自分の間違いを正し、ABA のやり方を改善しようと試みてきました。私は自分の行動や他の BCBA の行動に対して言い訳をするつもりはありません。ただ、謝るだけです。もっとやつてこなかったこと、もっと発言してこなかったこと、もっと押し進めてこなかったこと、もっと止めてこなかったことを謝ります。これは、自己認識、改善、透明性、説明責任、そして私たちがサービスを提供する人々の権利を守るために明白なコミットメントに向けた方向への一步だと考えてください。問題行動によって人生に悪影響を受けてきた自閉スペクトラム症の家族を助けるために、より完璧な ABA を目指すこの早足の歩みに、あなたも加わってくださることを願っています。

* この論文に関して、Anthony Cammilleri 博士の提案と励ましに感謝します。